

オウム真理教対策住民協議会ニュース

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

ひかりの輪との闘いに監視活動は欠かせない

オウム真理教が烏山地域に転入した直後の監視活動は、公安調査庁と成城警察が行っていました。遅れること3ヶ月、住民協議会独自で監視小屋を作り、2001年3月より監視活動を開始しました。町会・自治会・商店街・PTAを始め、さまざまな団体が参加した監視活動は、世田谷区職員の連日の協力もあり、18年にわたり継続されてきました。地下鉄サリン事件から5年が経過したといっても、監視を始めたころは、正体のわからない信者を前に、凄惨な事件の記憶が鮮明に蘇り、恐怖心を抱える人も沢山いました。さらにその年に、オウム真理教施設への暴力団による発砲事件などもあり、緊迫感の中の活動でした。これからも続く活動ですが、皆さんの協力がとても大切です。

監視活動の基本は相手に姿を見せること

監視活動は多数の団体の協力により、18年間6570日乗り越えてきました。監視活動は高齢の方の参加が多いため、



暑い日寒い日、雨や雪が降る日には、監視小屋を活用することを勧めてきました。急に具合が悪くなった場合は、無理をせず帰宅するなど絶えず呼びかけてきました。オウム真理教との戦いは大事な活動ですが、体調を崩してまで行う活動ではありません。とは言っても監視活動は、住民協議会では最重要課題であり、相手に姿を見せることで、ひかりの輪に圧力をかけることの出来る、大変重要な活動です。成城警察や公安調査庁の方も監視をしていますがお互いに協力しながらも、その目的は団体によって異なります。住民協議会独自の方法・目的を大

切に、今後も活動を続けて行きましよう。

上祐史浩は「宗教者」なのか？

以前にもお知らせしましたが、4年ほど前に、監視をしている人に向けた上祐の言葉「この場所は私有地だ、いますぐ出て行け」との口調の激しさに、監視をしていた人は、恐怖を感じたと語っていました。この事実はこれまで隠し通してきた、上祐の本性が暴露された瞬間でもありません。さらに監視活動に対し、普段は何食わぬ顔をしていたが、相当なストレスを溜め込んでいたことを、上祐自身が如実に証明してしまったのです。今年5月の学習会で、ひかりの輪脱会信者の中山氏が語った「上祐は住民の反対運動など形式的で取るに足りないもの、大したことはない」と信者に公言していたとの報告がありました。一方では住民との融和を口にしながら、住民の活動を見下し侮辱する男に「宗教・哲学」などを語る資格はありません。監視活動で上祐・ひかりの輪の本質をあぶり出し、解散・解体に向け一層力を尽くしましょう。

第39回 抗議デモ・学習会

11月9日(土) ●抗議デモ 午後1:30集合 ●学習会 午後2:30開会
烏山区民センターホール

講演「オウムの暴走を許したのは誰か？」

オウム真理教事件は、いくつかの謎を残したまま13人の死刑が執行された。しかし教団組織の不可解さ、信者と教祖の関係、オウムが起こした事件への解明、さらにオウム事件への警察組織の捜査のあり方など、これからに生かさなければならないことが残された。

講師：弁護士 地下鉄サリン事件被害対策弁護団事務局長 **中村裕二氏**
地下鉄サリン事件被害者の会代表世話人 **高橋シズエ氏**

監視小屋便り

オウム真理教への監視活動は地域住民の皆さんの協力により、今日に至っています。

現在は39の団体(町会・自治会、小・中学校PTA、青少年地区委員会、商店会)の皆さんが年間のローテーションを組み監視活動を行い、信者達の動向を日誌に記録しています。

<日誌より抜粋>

- ・ピンクTシャツの男性2階廊下を行ったり来たり6回。他に変わった様子はなかった。小学生の帰宅時間に監視に入ったことがなかったの、今回初めて北小?の3~4人の子ども達が通るのを見かけた。
- ・上祐代表は外出とのこと。死刑執行以降特に動きがなく静かになったとの世評もあるが、極く若い人達がネット情報を得て興味を持ったのか、この住居への出入りが見られる(警察官からの情報)。
- ・午前10時30分頃から警視庁の職員4~5名が上祐の部屋と向かって左側の部屋に入室、11時40分に出てきた。
- ・上祐が2階の通路を2回ほど行き来し、右側の階段の踊り場から、こちらの監視小屋の方を見て、また通路に戻り左端の部屋のドアを開けて少し中をのぞき、階段の方へ出た。

- ・「椅子で監視する場合のふさわしい場所」という所に行って椅子に座っていたが警察の方から、マンションの一般住民の方に不快な思いをさせるので、監視小屋から2階の出入りを監視するだけで良いと言われました。
- ・老婦人1人、中年男性1人、右側の部屋から1番左の部屋に移動。
- ・10時30分頃、警察の人が来た。(5人)車の写真を撮っていた。11時頃まで。
- ・パトカーが1台来た。1階奥の部屋に係員が入り、部屋の内部を調べている様に思えた。警察の小屋の前で7人が集まっている。道路沿いに公安の人が2人(男女)立って監視している。
- ・今日は警察の車が多く来ている。(5台)女性2人2階右の部屋より左の部屋に移動。

オウム真理教は多くの犠牲者を出したテロ集団です。その分派である「ひかりの輪」は、事件当時中心にいた上祐史浩が代表となり地方での布教活動に力を入れ信者を獲得しています。烏山の施設が静かになったとはいえ油断できません。

監視活動は地道な活動ですが、皆さんのご協力の積み重ねで今日に至っています。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

新樹苑納涼盆踊り大会で募金活動

7月28日(日)夢のみずうみ村新樹苑の納涼盆踊り大会で募金活動を行ってきました。この日は台風の影響で、空模様が怪しいなかでの開催でした。しかしそんな心配は、強い風と一緒に飛んでいってしまうような賑わいでした。小学校入学前のチビっ子による踊りは、皆眼を細めて楽しんでいました。神社のお囃子の子ども達も参加していて、笛や太鼓の音色で、盆踊りを一層引き立てているようでした。住民協議会の募金活動には、皆さまにご協力いただきありがとうございます。「大変ね」とか「頑張っ

ね」との声をかけていただきますが、募金活動に参加させていただいている、こちらの方が本当にありがたいと思っています。オウム真理教を「解散・解体」させるまで頑張っていきますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



サリン被害者に風化はない③

寄稿

オウム真理教による松本サリン事件は、地下鉄サリン事件の前年1994年に長野県の松本市で起きた。松本地裁での裁判で勝訴の見込みがない事を理由に、裁判官官舎にサリンを散布、8名が死亡、約600名が負傷するという惨事となった。亡くなった方の中には、長野県警の一方的な捜査で冤罪となった、河野義行氏の妻澄子さんも含まれる。澄子さんはサリン中毒の被害で寝たきりとなり、闘病の末14年後の2008年に息を引き取る。一部の警察官は、薬品の製造元や購入先を特定し、オウム真理教関連であるところまで捜査は行き着いたが、警察上部の決定で頓挫し、事件が解明されたのは、地下鉄サリン事件後であった。松本サリン事件はオウム真理教事件の中でも、警察の不手際が特に

目立つ事件でもあった。事件被害者のなかには、当時大学生だった阿部裕太さんも含まれていた。将来はスポーツ関連の記者との夢を語っていたが、19歳の青年の夢は、一瞬の出来事によりその未来は断ち切られた。父親の中村和義氏は「今の時間を家族と大切に前向きに生きたい」と語り、オウム真理教信者の死刑執行については「25年経とうが、死刑が執行されようが、何も気持ちに変化がない」と複雑な胸中を語った。

—朝日新聞記事より一部抜粋しました—

※「サリン被害者に風化はない」は読者の投稿をお待ちします。オウム真理教が起こした事件、被害などへの思いをお寄せください。

住民協議会活動報告

7月20日(土) 千駄山ふれあい祭りで募金活動
7月23日(火) 実行委員会
7月25日(木) 夏休み親子の映画会で募金活動
7月28日(日) 新樹苑盆踊り大会で募金活動
8月1日(木)~3日(土) からすやま夏まつりで募金活動
8月7日(水) 事務局会議
8月9日(金)・10日(土) 給田納涼盆踊り大会で募金活動

8月23日(金)・24日(土) お笑い夏まつり'19で募金活動
8月25日(日) 親子木工まつりで募金活動
8月25日(日) 親和会「夏休み親子夕涼み会」で募金活動
8月26日(月) 編集会議 協議会ニュース188号初校正
8月27日(火) 実行委員会
9月2日(月) 編集会議 協議会ニュース188号再校正
9月6日(金) 事務局会議
9月10日(火) 協議会ニュース188号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。